



# 学びのキャンパス台東 アクションプラン

## 台東区学校教育情報化推進計画

【令和8年度～令和10年度】

### 概要版

※全体版のページ数を記載しています



令和8年3月

台東区教育委員会

### 施策目標1 新しい時代に対応する資質・能力を育成する

これからの社会において、人口減少・高齢化の進展、地域社会・家族の変容、急速な技術革新、多様化・国際化などの状況は全国的に進行していくものと考えられます。

子供たち一人ひとりが生涯を通じて夢とところざしをもち、予測困難な時代を生き抜くために、人権尊重の精神を基盤とし、健やかな心と体の育成を図るとともに、基礎的・基本的な学力の定着と自ら学び考える力の育成を図ります。保護者や区民の理解を得ながら、新しい時代に対応する資質・能力の育成を推進していきます。

#### 施策の方向

施策の方向1	かけがえのない命を大切にする豊かな心の育成	28 ページ
施策の方向2	子供の資質・能力の育成と学習習慣の確立	34 ページ
施策の方向3	豊かな体験活動を通じた健やかな体の育成	38 ページ
施策の方向4	新たな価値を創造する社会を生きるために必要となる力の育成	45 ページ

#### 現状の教育課題

AIやIoTなどの情報技術の進展に伴い、社会が加速度的に変化していく中、SNSの普及による情報リテラシーの低下、運動不足による健康課題も顕在化しており、心身の健やかな成長と体験活動の充実が求められています。

このような情勢を踏まえて、施策目標1の実現に向けては、以下のような課題が挙げられます。

第1に、心豊かな成長を支える環境づくりを推進するとともに、引き続き「生命尊重の教育の推進」や「道徳教育の充実」などに取り組み、学校・家庭・地域の連携による豊かな心の育成を推進すること。

第2に、デジタル学習基盤を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推進するとともに、探究的な学び方を経験することを通して、自ら学ぶことができる力を育成すること。

第3に、体力向上や健康教育の充実を通じた心身の調和的な発達の推進に向けて、就学前からの食育・安全教育・防災教育の推進に加え、地域資源を活用した体験活動を充実すること。

第4に、未来社会を見据えた教育の転換を図り、情報モラル教育を含む情報活用能力を育成するとともに、探究的な学びを通じた新たな価値を創造する力を育成すること。

## 子供たちの意見



## 重点事業

令和5年度以降の社会情勢の著しい変化及び「現状の教育課題」並びに「子供たちの意見」を考慮し、本アクションプランにおいて以下を重点事業として取り組みます。

### いじめ問題対策委員会[指導課]

いじめ防止対策推進法に基づき、教育委員会の附属機関として、区におけるいじめの防止等のための対策の推進について調査審議、答申、意見陳述を行います。また、重大事態が発生した場合には、組織として調査を行い、その結果を教育委員会に報告します。

### 児童・生徒の学力向上と授業改善[指導課]

文部科学省・東京都・区の学力等に関する調査の結果等を基に、区立小中学校の児童・生徒の学習状況を把握・分析し、子供の実態にあった効果的な授業のための改善を行います。その際、各校に配置された学力向上推進ティーチャーを活用し、個別指導、少人数指導やチーム・ティーチングを実現し、学力向上を図ります。

### TAITOフューチャースクール[指導課]

台東区における「令和の日本型学校教育」の構築に向けて、区立学校2校を研究モデル校に指定し、これからの時代を見据えた先行実践に取り組みます。先行実践の成果と課題を基に、今後の学校教育と教育環境の方針を定め、区内全ての学校における「令和の日本型学校教育」の実現を推進していきます。

### 小中学校自然体験活動[学務課]

区立小学校第4学年から中学校第3学年の児童・生徒を対象に、自然体験を伴う宿泊行事を実施します。都会を離れ、少年自然の家「霧ヶ峰学園」等で、自然に親しみながら集団生活を行うことによって、友情を育みながら心身を健全にし、学習意欲と基礎体力の向上を図ります。

### 施策目標2 グローバルな社会で活躍する人材を育成する

多様化・国際化する変化の激しい社会で生き抜くためには、グローバルな視点をもって豊かな地域社会の創造・発展に積極的に貢献しようとする姿勢が求められます。その姿とは、江戸と今をつなぐまち台東区の歴史や文化伝統に誇りをもち、地域を愛し、人を愛し、行動することであると考えます。

そのために、新たな社会的・経済的価値を生み出すことなど、まちのニーズに応える人材や多文化共生の地域社会で活躍する人材、広い視野をもち国際社会を牽引していく人材など、グローバルな社会で活躍する人材を育成するための取組を推進していきます。

#### 施策の方向

施策の方向5 ころごしを立て将来の夢や理想を実現する人の育成	52 ページ
施策の方向6 社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成	55 ページ
施策の方向7 江戸で培った歴史や伝統を受け継ぐ豊かな感性の醸成	58 ページ
施策の方向8 社会の発展に貢献する意欲と責任感の育成	62 ページ

#### 現状の教育課題

国際情勢の不安定化や気候変動など、地球規模の課題に直面する中、多文化共生の進展により、異文化理解と協働する力が不可欠となっています。

このような情勢を踏まえて、施策目標2の実現に向けては、以下のような課題が挙げられます。

第1に、情報収集や自己表現の手段が多様化する中、キャリア教育の充実を通じて、自己理解を深め、ころごしを立てて主体的に学び、自己実現に向けた課題解決に取り組む態度を育成すること。

第2に、子供たちが自らの生き方や働き方を主体的に考え、必要な知識・技能を継続的に学ぶ力を育むとともに、探究的な学びや職業体験、地域との連携を通じて、社会的・職業的自立に向けた態度と能力を育成すること。

第3に、台東区の歴史・文化資源を活用し、地域住民や文化団体との協働による体験的な学びを通じて、子供たちの感性を育むとともに、伝統行事や文化財に触れる機会を通じて、地域への誇りと文化的素養を育成すること。

第4に、デジタル化により広がる社会との接点を生かし、地域課題への理解と多文化共生への意識を高めるとともに、ボランティアや地域行事への参加など地域と学校の協働による人づくりを推進すること。

子供たちの意見



重点事業

令和5年度以降の社会情勢の著しい変化及び「現状の教育課題」並びに「子供たちの意見」を考慮し、本アクションプランにおいて以下を重点事業として取り組みます。

こころざし教育の推進[指導課、教育支援館]

区立小中学校の児童・生徒が、「特別の教科 道徳」等の学習や中学校の立志式等の行事を通して、未来の日本を担うこころざしと意欲をもつことができるよう、こころざし教育を推進します。また、先人の功績や言行等から編纂した児童・生徒副読本「こころざし高く」を配布し、こころざし教育の充実を図ります。

グローバル教育の推進[指導課]

小学校では、体験型英語学習施設(TOKYO GLOBAL GATEWAY)において海外留学を疑似体験することにより、児童の英語活用に関する意欲とコミュニケーションを図ろうとする態度を育てます。

中学校では、夏休み期間を利用した2日間の英語体験学習プログラム(English Summer School)を実施することや英語検定料補助の実施を通じて、生徒の英語活用に関する表現力や技能等を育てます。

また、中学校の代表生徒が海外に短期留学する機会を設定し、これまでの学習や経験により身に付けた英語力を活用・発揮したり、現地校の生徒やその家族と交流したりすることを通して、英語等を活用したコミュニケーション力の向上と外国語の背景にある文化に対する理解の深化を目指します。

各小中学校の総合的な学習の時間や教科等を通じて、自国以外の文化を理解・尊重する態度を育てるとともに、多様な他者と協働してグローバルな社会の形成者としての連帯感や責任感を養います。

進路指導・キャリア教育の充実[指導課]

区立小中学校の特別活動主任、生徒会担当教員等を対象に、児童・生徒の学びや将来設計を支援する「キャリアパスポート」の活用方法や進路指導・キャリア教育の最新情報を学ぶ研修会を実施し、キャリア教育の充実を図ります。

#### 施策目標3 多様なニーズを具現化する教育を展開する

一人ひとりが豊かな生活を送り、また、公平公正で活力ある社会を実現する上で、障害の有無や日本語指導の必要性、いじめの解消、不登校への支援など、多様なニーズに対応した教育機会の提供が必要です。

経済の状況や社会の急激な変化などの影響を受けて、就学前教育の段階から義務教育段階において子供たちが多様な学習の機会を得られるようにしていくために、様々な状況にある家庭への支援を多面的・多角的に進めるための方策の充実を図っていきます。また、安全安心な教育環境の実現に向けた取組を継続的、計画的に進めていくとともに、子供や保護者の満足感、達成感を高めるための充実した教育環境の整備を推進し、多様なニーズを具現化する教育を展開していきます。

#### 施策の方向

施策の方向9 子供が豊かに学ぶ教育環境づくりの推進	70 ページ
施策の方向10 様々な家庭の状況や子供の諸課題の支援	77 ページ
施策の方向11 教員・保育士の資質・能力の向上	86 ページ
施策の方向12 時代の変化に対応した環境整備の推進	92 ページ

#### 現状の教育課題

外国籍児童・生徒の増加や不登校の長期化、発達障害への理解不足、また経済格差や家庭環境の多様化による教育機会の不均衡など、多様な教育ニーズへの対応が求められています。

このような情勢を踏まえて、施策目標3の実現に向けては、以下のような課題が挙げられます。

第1に、デジタル技術や専門的知見を生かして、障害や言語、文化などにかかわらず、すべての子供が安心して豊かに学べる教育環境を整備すること。

第2に、子育てへの不安や孤立感を抱える家庭への地域や学校による支援体制を強化するなど、子供の基本的な生活習慣や自立心の育成を支える支援を通じて、すべての子供が健やかに育つ環境を整備すること。

第3に、授業準備や子供との関わりに集中できる環境整備と、継続的な研修機会の提供など、教員・保育士の専門性と働きやすさの両立に向けた支援を行い、教育の質の維持向上を図ること。

第4に、子供たちが安心して学び、未来社会に対応できる力を育むために、ICT環境の整備や施設の安全性向上に向けて柔軟かつ計画的に環境を整備すること。

## 子供たちの意見



## 重点事業

令和5年度以降の社会情勢の著しい変化及び「現状の教育課題」並びに「子供たちの意見」を考慮し、本アクションプランにおいて以下を重点事業として取り組みます。

### 不登校支援の推進[指導課、教育支援館]

台東区不登校対策ガイドラインを基に、不登校あるいは不登校傾向の見られる生徒のための「不登校対応校内分教室チャレンジクラス」を設置し、登校日数の増加、学習内容の定着を図ります。

また、校内別室指導支援員を区立小中学校全体に配置し、学級で過ごすことが難しい児童・生徒に対して、別室で学習支援や相談対応を行うことで、不登校の未然防止や早期解決を図ります。

加えて、不登校対応巡回教員が区立中学校を訪問し、助言等を行い、各学校の対応力向上につなげます。

### 特別支援学級の整備[学務課]

障害のある、またはその心配のある児童・生徒がその能力を最大限に発揮できるよう、特別支援教育に係る学びの場を整備します。整備にあたっては、在籍者数の推移等を踏まえて計画的に行い、特に自閉症・情緒障害特別支援学級については、令和8年4月に石浜小学校、令和9年4月に御徒町台東中学校に新設します。

### 教員の働き方改革の推進[指導課]

学校教育の質の向上のために、教員が教員でなければできないことに集中できるように「学校・教師が担う業務に係る3分類」の徹底を図るとともに、管理職研修等を通じたマネジメント能力の向上を図ります。

また、教員の勤務時間の上限に関する方針を定め、教員を取り巻く環境整備に向けて、教員業務支援員や副校長補佐、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、多様な支援スタッフの配置拡充及び効果的な活用の促進、ICT活用による業務効率化の促進等に取り組みます。

## 施策目標4 持続可能な社会を創造する教育を展開する

子供たちを人間として調和のとれた大人に育成していく上では、学校園だけでなく家庭・地域が果たす役割は大きく、互いに連携し、社会全体で子供たちの教育を推進することが必要です。学校園が地域のつながりの中心となり、地域の教育の拠点として、地域の施設や組織、人的なつながりや絆など様々な形での連携を広げることで、地域全体を活性化していくことが重要です。

学校園が地域の人的、物的資源を活用することで、地域との連携を深め、さらに、学校、家庭、地域がそれぞれの立場から子供の教育に責任をもち、子供とのかかわりの中で個人が主体的に社会に参画し、子供たちを支え、地域社会全体の教育力の向上を目指しながら、相互に支え合う持続可能な社会を創造する教育を展開していきます。

### 施策の方向

施策の方向13 保護者・地域とともにある学校園づくりの推進	100 ページ
施策の方向14 学校園間の円滑な接続や連携の推進	105 ページ
施策の方向15 地域社会全体の教育力の向上	109 ページ
施策の方向16 自律的な学校園経営の推進	112 ページ

### 現状の教育課題

気候変動や地域の高齢化、孤立化などに対応するため、持続可能な社会づくりに向けた教育が重要であり、学校が地域の教育拠点となり、地域資源を活用した学びを展開することが求められています。

このような情勢を踏まえて、施策目標4の実現に向けては、以下のような課題が挙げられます。

第1に、デジタルによる情報共有や協働、対面での関係構築などの多様な手段により、地域連携を強化するとともに、学校・家庭・地域が協働して子供の課題に対応する体制を構築すること。

第2に、子供の成長を支えるために、地域単位での学校園間の連携体制を構築し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた連携強化を図り、教育の連続性を確保する取組を推進すること。

第3に、社会教育施設や関係機関、地域人材との連携により、デジタル技術を活用した地域資源の共有や学びの場の拡充、地域の絆を生かした対話的な関係づくりを推進し、学校・家庭・地域が連携した子供の育ちを支える体制を構築すること。

第4に、校園長のリーダーシップと組織的な学校園経営により自律的な経営体制を構築し、持続可能な教育を実現するために、専門スタッフの配置やマネジメント支援体制の整備など、教員が本来の教育活動に集中できる環境を整備すること。

子供たちの意見



重点事業

令和5年度以降の社会情勢の著しい変化及び「現状の教育課題」並びに「子供たちの意見」を考慮し、本アクションプランにおいて以下を重点事業として取り組みます。

学びのキャンパスプランニング[指導課]

区内の博物館・美術館などの文化施設や台東区にゆかりのある企業・団体・学識経験者、江戸の伝統文化について講義する講師などと連携して、「台東区学校教育ビジョン」の実現に向けて作成したプランの中から自校園に合ったプランを選択し、実施します。

幼保小接続期カリキュラムの推進[教育支援館]

幼保小接続期カリキュラムの充実を図るため、教員・保育士等を委員とする開発委員会を開催します。同委員会では、新たな実践事例の検討を行うとともに、研究授業・保育の実施による事例検証も行います。事例については報告書にまとめ、区立及び私立学校園に周知します。

中学校部活動の地域連携・地域展開[指導課、スポーツ振興課]

区立中学校の生徒が、将来にわたりスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、各種団体との連携等により、学校と地域が協働して活動環境の整備を進め、部活動の地域連携・地域展開に取り組みます。取り組みを段階的に進めるため、モデル事業を実施し、検証を行っていきます。

# 学びのキャンパス台東 アクションプラン

## 台東区学校教育情報化推進計画

